

みやざききょうだい そんぶん
 << 宮崎兄弟と孫文のつながり >>

とうてん そんぶん はじ し
 滔天、孫文を初めて知る

1897年6月、民蔵は滞在先のアメリカで読んだ英字新聞で孫文を知り、その記事を荒尾に送り、滔天に孫文の存在を伝えた。その後も、アメリカから、孫文との連携を説く手紙を滔天に出した。



滔天
 とうてん

とうてん そんぶん はじ あ
 滔天、孫文と初めて会う

やぞう し ちん
 彌蔵と知りあっていた陳少白の紹介で、1897年9月に孫文と横浜で出会うこととなる。

そんぶん どうし かくめい しょうがい
 孫文の同志として革命に生涯をささげる。孫文は、日本国内での資金・武器調達に関する全権委任状を与えるなど、滔天に大きな信頼を寄せた。



民蔵
 たみぞう

たみぞう そんぶん
 民蔵、孫文の民生主義に影響を与える



彌蔵
 やぞう

やぞう こうどう
 彌蔵の行動が滔天と孫文を結び付ける

たみぞう とち じんるいきょうつう
 民蔵の「土地は人類共通の財産」という思想は、孫文の民生主義に少なからず影響を与えた。滔天と共に孫文を支援し続け、孫文の最後の病床を見舞うことを許された4人の日本人のうちの1人となった。



孫文
 そんぶん

やぞう ちゅうごく かくめい
 彌蔵は、中国での革命から全アジアの自由民権革命を目指し、まずは中国人になりきろうとして、髪を結び、名前を管仲甫と改め、横浜の中国商館で働いた。そこで、孫文と同志である陳少白と出会った。

孫文
 そんぶん
 (1866~1925)



貧しい人々を救うために立ち上がった中国の革命家。

まず貧しさに苦しむ人々を救うために国を変えようと、革命を目指しました。日本で滔天と出会ったことをきっかけに、革命を志す仲間たちと中国同盟会をつくり、この同盟会を中心として、1911年10月10日に武昌で起こした反乱に成功し、辛亥革命を成功させました。そして、中華民国という新しい国をつくり、そのトップとして臨時大総統になりました。1925年3月12日に59歳でせくなりましたが、滔天・民蔵との友情は最後まで続き、「革命におこたらずる者は宮崎兄弟なり（革命に力を尽くしてくれたのは宮崎兄弟である）」と語ったとされています。

